

ひまわりクリニックきょうごく

ひまわり便り 第16号

オランダ保健医療福祉視察研修を終えて 前沢政次



認知症村ホフ・ヴェイの風景



1週間オランダに医療介護の視察研修に行ってきました。全国国保診療施設協議会の主催で、声をかけていただいたのでした。一行は添乗員を除いて全国から14名の参加でした。医師5名、看護師4名、管理栄養士、理学療法士、シンクタンク研究者各1名、事務職2名でした。

オランダは麻薬、売春、安楽死が合法化された不思議な国です。風車とチューリップが有名ですね。それに2年前の冬季オリンピックではオレンジ色のユニホームを着た選手たちが大活躍しました。

約12時間飛行機に乗ってアムステルダム空港に着き、すぐデン・ハーグ市に移動して1泊。

翌日午前中にジェイコブス・ホスピスを見学しました。3か月以内に亡くなる可能性が高い人が入所されます。定員は6名です。ボランティアが100名活動しています。熟練した人35名、その補助役65名だそうです。作業療法士、社会福祉士がコーディネーターを務めています。医師2名、看護師8名がそれを支えています。

午後はデンハーグ市の福祉局を支える外郭団体エクストラを訪問しました。さまざまな取り組みをしていますが、最近のヒットは、高齢者医療で、かかりつけ医が専門医との連携ではなく、社会福祉士と連携したら、費用も安く、ケアも充実したとのこと。高齢者は医学上の問題よりも、経済的・心理的問題が大きいと考えられています。

翌日はアムステルダム市に移動して、まず訪問看護の取り組みを勉強しました。ビュートゾルフという組織が成果をあげています。特徴は職種に寄らず訓練によって、職員誰もが何でもできる仕組み、全員が正職員で勤務時間が8~40時間と幅がある。コンピューターをうまく駆使しているなどです。10年間で職員は4人から1万人になったそうです。

特に驚いたのは、認知症の重症な人だけを集めて共同生活をしている「認知症村ホフ・ヴェイ」でした。この村には150人ほどの重度認知症の方々が暮らしています。病院でなく、住まいであり、家でなくてはいけないのです。しかも、同じ価値観の人が集まるようにしています。1グループは6人までです。生活様式で7つにグループ分けがなされています。この形で、他の施設では2年くらいの寿命がここは3年となっています。

さらに詳しい内容は下記の報告会にてお伝えしますので、関心のある方は是非ご参加下さい。

オランダ視察研修報告会のお知らせ

日時:平成28年8月5日(金)

18:30~20:00

場所:京極町福祉センター研修室

入場無料・申し込み不要です。

どなたでもご参加いただけます。



<お盆休みのお知らせ>

8月15日(月)・16日(火)
は休診となります。

お間違いのないようお気を付け下さい。

